

# 「レハール作曲『微笑みの国』を楽しむ」

お話・演奏：田辺 秀樹（一橋大学名誉教授）

フランス・レハールのオペレッタでは、『メリー・ウィドウ』（1905年）が抜群に有名ですが、レハールはこの大成功作以降も、多くのオペレッタを作曲しています。それらの中から、今回は1929年にベルリンで初演された後期の傑作のひとつ『微笑みの国』を取り上げます。中国の王子スー・チョンが訪問先のウィーンで伯爵令嬢リーザと知り合って二人は結婚するものの、文化が大きく異なる中国での宮廷生活にリーザは耐えられなくなり、最後は辛い別れとなる、という、ハッピーエンドで終わらないレハール後期のオペレッタの代表的な作品です。物語としての出来具合はさておくとしても、ほのかにエキゾチズムの響きも取り入れた音楽は素晴らしく、こんにちドイツやオーストリアではよく上演される人気作です。日本語字幕付のビデオで見どころ、聴きどころを紹介しながら、お話をさせていただきます。

後半はお飲物とともにピアノ演奏をお楽しみいただきます！

日時 2017年 12月26日（火） 14:00～16:30  
参加費 ¥3,500（ワイン、お茶、おつまみが付きます）  
会場 カーサ・モーツァルト

東京都渋谷区神宮前1-10-23 3F

JR「原宿駅」徒歩5分  
東京メトロ「明治神宮前駅」出口5徒歩2分  
ラフォーレ原宿裏、東京中央教会前



申込み メール：info-cmma@casamoz.org  
FAX：03-3497-1833

メールまたはFAXにお名前、ご連絡先、ご希望人数を明記ください。

## 田辺 秀樹（タナベ ヒデキ）

1948年東京生まれ。東京大学大学院ドイツ文学科修士課程修了。  
ボン大学に留学し、ドイツ、オーストリア各地でオペラ見物やコンサート通いに精を出す。専門はドイツ語・音楽文化論。研究対象はモーツァルト、ドイツ語圏の歌曲、歌劇、芸能など。音楽評論、放送番組解説でも活動、  
秘かに「酒席ピアニスト」としても活躍している。  
著書に「モーツァルト」（新潮文庫）、「モーツァルト16の扉」（小学館）。  
「リヒャルト・シュトラウスの実像」（共著・音楽之友社）ほか。



*Casa Mozart*  
MUSIC ASSOCIATION